

おっばいの愛、おっばいの夢。

マチルダ・メイ  
Mathilda May

ジェラルド・ダルモン  
Gérard Darmon

ミゲル・ポヴェダ  
Miguel Poveda

ビエル・ドゥラン坊や  
Biel Durán



ビガス・ルナ監督作品  
Una película de Bigas Luna

# おっばいと お月さま

La Teta i la Lluna

1994年度ヴェネツィア国際映画祭〈金のオッセラ賞〉脚本賞受賞作品

Oro de Oro mejor guión Festival de Venecia 1994

脚本: クカ・カナルス/ビガス・ルナ 撮影: ホセ・ルイス・アルカイネ 音楽: ニコラ・ピオヴァーニ 主題歌: エディット・ピアフ「愛の言葉」 キャスティング: コンソルトゥラー 編集: カルメン・フリーアス 美術: アイメ・テウチ 製作補: マヌエル・ロンバルドロ/エドゥアルド・カンボイ 製作: グザヴィエ・ジェラン/ステファーン・マルシル 製作総指揮: アンドレス・ピセンテ・ゴメス Una Producción por: Lolafilmsa-Cartel/ Coproducida por: Hugo Films (94年度スペイン・フランス合作) / 55mmシネマスコープ カラー / D&C-SR方式 / 5巻 / 2258m / 1時間26分 配給: アルシネテラン/シネマテン 提供: アルシネテラン/関西テレビ放送/シネマテン/ポニーキャニオン 後援: カタルーニャ州自治政府/スペイン大使館/ユニフランス・インターナショナル 協力: プロデューサー・アソシエイツ



これはミルクたっぷりの、おっばいに恋した小さな男の子の物語。

# おっばいとお月さま

## La Teta i la Lluna

もしあなたが消えてしまったら、  
私はきっと死んでしまうでしょう。  
こんなにあなたを愛せるなんて、  
狂ってるわ。

こんな恋、できるわけない。

〈挿入歌「愛の言葉(唄:エディット・ピアフ)」の歌詞より〉

誰でも幼い頃は天才的な空想家だった。現実にはありえない事を想像して、しかしそれが既成事実になってしまうような、子供たちだけが享受できるシュールでファンタスティックな日常。今思い返しても、どうしてあんな突拍子もない事を思い付いたり、仕出かしたりしたのだろう。子供の心は地中海の空のように蒼く澄み切っていて掴み所がなく、何処までも無限に広がっているものなのかも知れない。

この「おっばいとお月さま」は、監督であるピガス・ルナ自身のそんな幼い頃の記憶が基盤となって作られた、素敵な愛の物語である。エディット・ピアフのシャンソンに、地中海の乾いた風、ノスタルジックな見世物小屋、ドガの絵から飛び出したような美しいフランスの踊り子。「ハモンハモン」のドライなタッチから一転、ルナ監督のポエティックな愛の情景が、あなたを深い感動へと導いてくれるはずだ。

月はなんでも知っている  
なのに 月は何も語ろうとはしない  
理由もなく月である彼女は  
あなたの傍らでただ眠っている

〈ピセンテ・セラミ(スペインの詩人)の作品より〉

9歳になるテテ坊やには、最近弟が出来た。しかしテテは、この弟の誕生を心から歓迎する気になれない。だって、弟は大好きな母さんの「おっばい」を、テテから奪ってしまったのだから。こんな困った事が起こった時には、テテはお月さまに願をかける。どうか僕のために新しい「おっばい」を地球に送って下さい、てね。

テテは「おっばい」の秘密を知っている。——あの中にはミルクがいっぱい詰まっています、だから女の人は



はみんな胸が膨らんでいるんだ。でも、ミルクを詰めるのは男なんだよ。毎晩、母さんにミルクを詰めているのは、父さんなんだもん。

ほどなくお月さまは、テテの願いを叶えてくれる。フランスの踊り子エストレリータが夫のモーリスと共に、テテの住むカタロニアの小さな街へやって来たのだ。夫のおなら芸で放つ吹き矢がエストレリータの肩紐をさすめ、ドレスがはだけて彼女の美しい胸があらわになる。この光景を目撃したテテは、彼女のミルクたっぷりの「おっばい」に一目惚れしてしまう。

ところがテテに恋敵が現れる。兄貴分の青年ミゲルが、彼女の手に触れた途端、身体中に電流を感じてしまったというのだ。つまり、彼はエストレリータに恋してしまったのだ。彼は自慢のものを駆使して、ところ構わず彼女に求愛のフラメンコを歌い、もはやその情熱は止む止めが効かなくなっている。

でもエストレリータは夫のモーリスをこの上もなく愛している。ふたりの絆はたとえミゲルやテテでも介入は出来ないだろう。ところが、モーリスには決定的な問題があった。エストレリータと真の愛を交わし合うことができないのだ。肉体的な愛の喜びを知らないエストレリータの心は、僅かに揺らぎ始めていた。そして物語は意外な結末を迎える……。



●世界が彼の魅力にノックダウン!  
天才子役ビエル・ドゥラン誕生。

「ニューシネマパラダイス」のト少年が一世代を風靡して以来、子役の選材不足が続いていたヨーロッパ映画界に救世主出現。その男がこの映画のビエル・ドゥランだ。9歳の男の子が持っている「はにかみ」や「純粹」さを、等身大の演技で見事に表現している。そして、素朴なテテ君にあなたもハマってしまふ事、必至。



●世界一美しい「おっばい」——  
マチルダ・メイの新しい魅力発見。

監督のピガス・ルナから「世界一美しいおっばい」と絶賛されたマチルダ・メイ。三人の男性から愛される聖母のような女性エストレリータを、可憐かつナチュラルに演じて、ヨーロッパの女性ファンから絶大な支持を獲得。演技的にも新境地を開拓したと評価されている。テテ少年にせがまれて、特別な方法で「おっばい」をあげるシーンは、将来語り草になる程印象的だ。また去年の秋には、この映画の共演者であるジェラルド・ダルモンとの間に一児をもうけ、今は公私ともに幸福の絶頂にある。

●スペイン・カタロニア地方の風物が  
映画全編に。

この映画のクライマックスに登場する、カタロニア地方独特のお祭り「カステル(人間タワー)」は圧巻だ。「カステリエル」と呼ばれる隊員達が土台を組み、地上10mは僅かに超えるであろう、9層からなるタワーを形成する。その頂点を小学生くらいの少年が決め、片手を高く挙げたところで勝負が決定する。50弱の隊の間で競われるこの競技は、毎年秋に開催されている。この他にも映画にはスペイン特有の水差し瓶ポロンや、焼き小玉葱のカルソツ、カタラン・ミルク、フラメンコ、フェリーニ映画に出てきたような見世物小屋、地中海といった、ローカル色豊かな小道具で、私たちの眼と感性を充分に楽しませてくれる。

12月23日(土)よりお正月ロードショー

時間 1:30 3:20 5:10 7:00 (12/31・1/1休)

ACTシネマ・ヴェリテ

06-361-4310

泉の広場30番出口 うめだの洞B1

特別鑑賞券1,400円発売中!! (当日/一般1,700円・学生1,500円)